

北海道 遠軽町での取り組み

出村 和則

遠軽厚生病院 | 視能訓練士

本レポートでは私が3歳児健康診査（以下、3歳児健診）に参加するまでの経緯と業務内容、および北海道内の現況について報告いたします。

北海道では、2002年に北海道美幌町（人口約2万人）において、3歳児健診にはじめて視能訓練士による視能検査が取り入れられました。従来の家庭における絵視標とアンケートによるスクリーニングに加え、視能訓練士が健診会場で屈折検査（検影法）、眼位検査、眼球運動検査を全例に実施し、必要な対象者には視力検査を行う方式でした。遠軽町（同約2万人）でも2013年から美幌方式を採用し視能訓練士が技術支援を行なっています（表1）。

2004年に北海道視能訓練士会の前身であるオホーツク視能訓練士会において、池田陽介氏（美幌町立国民健康保険病院：視能訓練士）により「幼児期の視覚スクリーニング」と題して、3歳児健診の課題や美幌町の取り組みが報告されました。それをきっかけに現況調査を目的に多施設共同研究を計画し、各施設でいわゆる「健診もれ」と思われる症例の受診数を調べました。その後も断続的に健診をテーマにした集会を企画し（表2）、2010年には川瀬芳克先生（愛知淑徳大学）を釧路市にお招きし「3歳児健診における視覚スクリーニング」と題して講演を行っていただきました。この時は、地域の保健師にもご参加いただき、川瀬先生には二部構成でお話しをいただきました。このような



流れから遠軽町においても健診の充実は必要との思いにいたり、地域の保健師との協議を重ね、視能訓練士が参加することになった次第です。

保健師との協議においては、とくに屈折検査の重要性について説明しました。検影法は手技が難しいとして敬遠されがちですが、健診はスクリーニングであるため、基準値を超えるか否かを評価すればよく、中和法を行う必要もないので数枚の検眼レンズを持参するだけで済みます。判定基準は、「日本視能訓練士協会の三歳児健診マニュアル（第一版）」を採用しています。

また、以前は視力検査ができない児には自宅での再検査をお願いし、その結果を電話で確認する方法をとっていましたが、3～6ヶ月後に健診会場に再来してもらい視力検査を行うようにしました。判定を確実にするという方法に切り替えことで、精度を向上させることができました。7年間の実績を表3に示します。

視能訓練士の参加により、保健師の視覚に対する認識も変わり、弱視や斜視の早期発見・治療の重要性の理解が得られ、保護者からは眼の専門職である視能訓練士が参加することで安心の声が聞かれました。

2017年4月に厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課から都道府県等に対し、3歳児健診における視力検査の実施について、市町村において適切に実施されるよう助言等の支援をするように通達がありました。これを受けて道内でも健診方法が見直されはじめ、スポットビジョンスクリーナーによる検査を取り入れる自治体も現れました。この気運の高まりを機に、現状把握と多職種連携の観点から、2019年に第17回北海道視能研究会（北海道視能訓練士会主催）でシンポジウムを企画し、視能訓練士2名（遠軽町，福岡県福岡市）と保健師2名（美幌町，苫小牧市）をシンポジストに迎えディスカッションを行いました。その様子はインターネットを通じて全道の視能訓練士ならびに保健師にライブ配信しました。

このように、微力ながらも地域に根ざした啓発活動を続けてきたことにより、眼科には視能訓練士という専門職が所属していることが小児科医や保健師に認知され、各地域で眼科における精密検査へ繋がりやすくなってきたことは、ひとつの成果といえると思います。

これまでの多くの報告で述べられているとおり、視能訓練士がもれなく地域の乳幼児健診に直接的に関わることは到達すべき目標です。とくに実施主体である市町村に所属している視能訓練士は積極的に関わるものが求められるものと考えます。また、精密検査はすべての視能訓練士が関わる可能性があるため、重要な研究テーマのひとつといえるでしょう。

今後も道内の乳幼児健診の充実を促進するべく、調査研究を継続し、啓発活動を推進してまいります。

表1 北海道遠軽町の3歳児健診視能検査概要

実施年齢	3歳4ヶ月
実施回数	12回／年
受診者数	約20名／回
視能訓練士数	1名
視能検査	屈折検査（検影法），眼位検査，眼球運動検査，視力検査

表2 乳幼児健診に関する北海道視能訓練士会の取り組み

2004.10.02	第1回オホーツク視能訓練士会学習会 「幼児期の視覚スクリーニング」 池田陽介 美幌町立国民健康保険病院
2005.05.21	第2回オホーツク視能訓練士会学習会 「3歳児健診のもれ症例の報告」 多施設共同研究
2005.10.29	第3回オホーツク視能訓練士会学習会 「幼稚園眼科検診におけるハンディレフの使用経験」 谷脇恭子 網走厚生病院
2006.05.13	第4回オホーツク視能訓練士会学習会 「3歳児健診もれ症例の検討」 池田陽介 美幌町立国民健康保険病院
2010.05.15	第12回オホーツク視能訓練士会学習会 「3歳児健診における視覚スクリーニング」 川瀬芳克 愛知淑徳大学
2011.07.30	第2回北海道視能研究会 「3歳児健診の現状2011」 池田陽介 北海道立子ども総合医療・療育センター
2013.05.27	第4回道東・道北眼科スタッフ学習会 「遠軽町3歳児健診への参加報告」 出村和則 遠軽厚生病院
2015.07.25	第10回北海道視能研究会 「遠軽町における3歳児健診視能検査」 出村和則 遠軽厚生病院
2017.09.09	第14回北海道視能研究会 「3歳児健診への視能訓練士の参加前後の比較～視覚検査の結果報告～」 出村和則 遠軽厚生病院
2019.03.09	第17回北海道視能研究会 「視能訓練士と連携した3歳児健診での視覚検査」 保健師 美幌町 「視能訓練士が参加した5年間の実績」 出村和則 遠軽厚生病院 「スポットビジョンスクリーナーを導入して」 保健師 苫小牧市 「福岡の3歳児健診の現状」 久木田竜弥 林眼科病院

表3 北海道遠軽町における3歳児健診視能検査の実績 (2013~2019)

年 度	3歳児 健康審査 受診者数	異常 なし	要再検査	要精密 検査	その他 既往あり 検査不能 過期中止 など	要精密 検査率	精密検査 受診票 発行数	結果 把握数	精密検査 受診率	異常 なし	経過 観察	要治療 者数	弱視あり				弱視なし又は 弱視の有無不明			結果不明 受診中断 など	弱視 発見率 (a+b +c+d) /A
													不同視 弱視	斜視 弱視	屈折 弱視	その他 種類不明 の弱視	斜視	屈折異常	その他の 疾患		
	A			B		B/A	C	D	D/C			E	a	b	c	d					
25年度	191名	154名	9名	27名	1名	14.1%	27名	19名	70.3%	4名	7名	8名		1名	5名			7名	1名	1名	3.1%
26年度	162名	142名	6名	14名	0名	8.6%	14名	12名	85.7%	2名	4名	6名	1名	1名	2名			2名	3名	1名	2.5%
27年度	160名	138名	4名	18名	0名	11.3%	18名	16名	88.9%	2名	7名	7名	1名		5名			1名	7名		3.8%
28年度	138名	110名	15名	13名	1名	9.4%	13名	9名	69.2%	2名	1名	6名			4名			2名			2.9%
29年度	138名	115名	9名	13名	1名	9.4%	13名	13名	100.0%	2名	4名	7名			6名			1名			4.3%
30年度	118名	105名	6名	7名	0名	5.9%	7名	6名	85.7%	5名	0名	1名		1名						1名	0.8%
令和1年	132名	117名	8名	7名	0名	6.0%	7名	6名	85.7%	0名	2名	4名			3名			1名			2.3%